

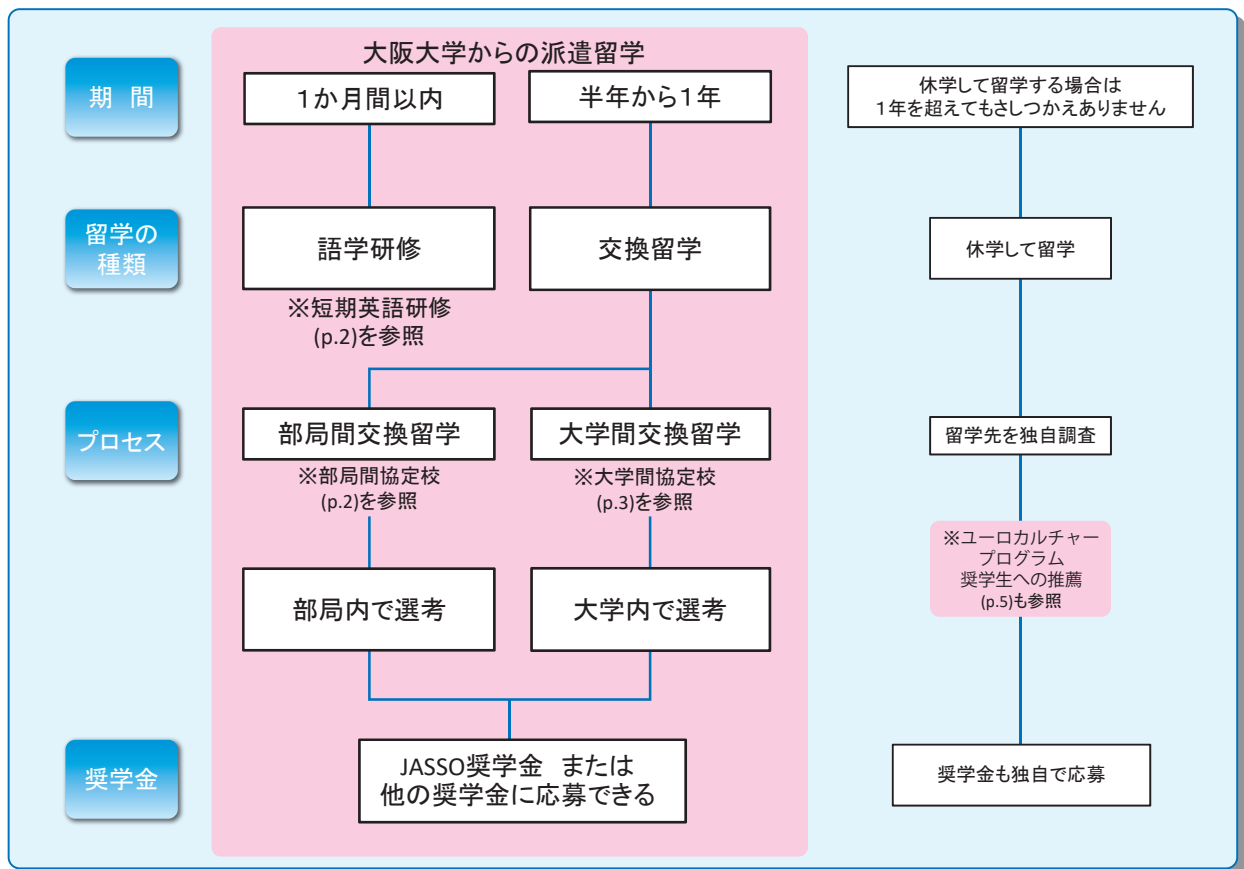


## 留学のチャンスを活用しましょう！

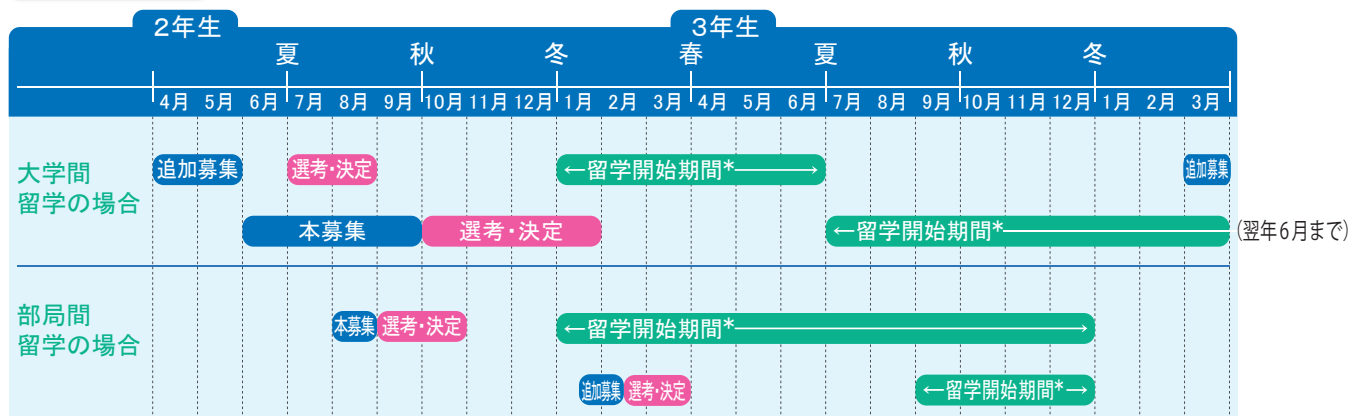
大阪大学では学部生・大学院生の海外留学を推奨しています。

このパンフレット掲載の情報は、[文学部のホームページ](#)でもご確認いただけます。

文学部 HP » 国際交流 » 広報・記録 <http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international>



### タイムライン



\*留学開始時期は受入大学の学期開始時期による

## A. 留学情報 役に立つ説明会が実施されています

- ★「海外留学オリエンテーション」（国際学生交流課主催）4月末に開催。  
語学研修、国際交流科目などについての説明があります。
- ★「大学間交換留学オリエンテーション」（国際学生交流課主催）6月から7月にかけて、各キャンパスで開催。  
交換留学（大学派遣）についての説明があります。
- ★「人文学研究科（旧文学研究科）・文学部 留学説明会」5月開催。  
人文学研究科（旧文学研究科）・文学部の交換留学、語学研修の体験談、留学の応募から出発前の準備の様子などを紹介します。  
☆パンフレット「海外留学にチャレンジしてみよう！」 阪大生のための「海外留学ガイドブック」  
[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

## 留学の種類と語学研修

- ★短期英語研修 【数週間程度】夏休みや春休みに英語研修が実施されています。

プログラム名	募集時期（2023年度情報）*	実施時期（2023年度情報）*
ハワイ大学マノア校 夏季語学研修プログラム*	4月上旬～5月上旬	8月中旬～9月中旬（5週間）
グローニンゲン大学 短期滞在学修*	11月上旬～12月上旬	2月～3月（10日間）
エンデランカレッジ夏季 語学研修プログラム*（オンライン）	4月上旬～5月上旬	8月中旬～9月上旬（3週間）
エンデランカレッジ春季 語学研修プログラム*（オンライン）	11月上旬～12月上旬	2月下旬～3月上旬（3週間）

\*「国際交流科目」として単位修得できるプログラム ☆募集情報は大阪大学のHP、KOANでご確認ください。

※最新の情報は大学HPを参照、[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

- ★交換留学 交流協定校へ1学期以上、1年未満の期間での留学

- ✓ 交換留学制度を利用する場合、大阪大学を休学することはできません。「留学」という身分になります。
- ✓ 留学中は大阪大学の学費を本学に納入します。多くの場合、留学先大学へ授業料を支払う必要はありません。
- ✓ 留学先で取得した単位は、所定の手続きを経て大阪大学で取得した単位として認められることがあります。
- ✓ 応募するには TOEFL iBT79 又は IELTS（アカデミック・モジュール）6.0 以上の英語力が必要です。  
語学基準は留学先大学によって異なります。

◆人文学研究科（旧文学研究科）・文学部の学生が海外留学のために利用できる交流協定には下記の2種類があります。

### 1. 交換留学（部局間協定）人文学研究科（旧文学研究科）・文学部は以下の大学と学生交流協定を結んでいます。

- ★マークが付いている協定校の場合、教務係へ応募願書を提出する前に国際連携室へ要相談！

イギリス	マンチェスター大学*	人文学部
	イーストアングリア大学	
イタリア	ウーディネ大学	法学部
ポーランド	ヤギェロン大学	国際政策学部
スウェーデン	ウプサラ大学（*修士・博士前期のみ）	神学部
	オロモウツ パラツキー大学*	文学部
チェコ	プラハ・カレル大学	文学部
	ハイデルベルク大学	日本学研究所
ドイツ	ゲッティンゲン大学	社会科学部
	パリ・シテ大学	
中国	上海戯劇学院 * 院生のみ	
	西北大学	文化遺産学院
韓国	韓国芸術総合学校	演劇院
タイ	チュラロンコン大学 * 院生のみ	アジア研究所
台湾	国立台湾師範大学	文学院
		国際与社会科学学院

交換留学（部局間）の募集・選考予定は以下の通りです。

募集	8月（本募集）	1月～2月（追加募集）*
選考	9月上旬	2月～3月
留学開始	翌年1月～12月	9月～12月

\* 大学によっては募集枠のない場合があります。

## 2. 交換留学（大学間協定）

大阪大学は世界各地の約133大学と交流協定を結んでいます。（2024年2月1日現在）

大学HP参照 <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/action/exchange> )

募集締切	3～5月頃（追加募集）	9月頃（本募集）
学内選考・面接	7～8月	10～11月
学内選考結果通知	8月頃	12月下旬頃
留学開始	翌年1月～6月	翌年7月～翌々年6月

※スケジュールは変更される可能性があります。

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

## バーチャル交換留学プログラム

### バーチャル留学について

大阪大学ではポストコロナの状況を展望し、海外の大学等からオンラインで提供されるプログラムを学生が履修する場合、一定の条件を満たす者\*に対して単位を付与し、また「留学」として認定します。

\*一定の条件を満たす者とは、以下の通りです。

- ① 「グローバル人材育成研修」（国際交流科目 / グローバルイニシアティブセンター科目群）の単位修得者及び同等の活動を行った者
- ② 全15コマ中8コマ以上の講義が、海外の大学や研究機関所属のゲストスピーカーにより日本語以外の言語で提供される科目の単位修得者
- ③ 本学が海外大学等に委託して実施するオンライン短期語学研修又は協定校などの海外大学が提供するオンライン短期語学研修に参加し、当該プログラムを修了<sup>(注)</sup>した学部生及び大学院生（本学による単位認定の有無は問わない）
- ④ 協定校などの海外大学の正課講義を、受講登録したうえで公式にオンライン受講した学部生及び大学院生（本学による単位認定の有無は問わない）

(注)：海外大学等が公式に発行する transcript（成績証明書）により修了が確認できるものであること  
以下に一例を紹介いたします。詳しくは国際連携室まで、お問い合わせください。

### ★ APRU Virtual Student Exchange Program (VSE)

VSEはARRU（Association of Pacific Rim Universities（環太平洋大学協会））加盟大学が提供する授業科目から構成されるオンラインプログラムです。詳細は、以下ウェブサイトを確認してください。

- ✓ VSE ウェブサイト <http://vse.apru.org/>
- ✓ VSE ウェブサイト Application <http://vse.apru.org/application/>
- ✓ VSE ウェブサイト授業科目一覧 <https://vse.apru.org/s22324/>  
(申請期限は大学毎に異なります。詳細は、VSE ウェブサイト授業科目一覧をご覧ください。)
- ✓ Co-curricular programs <https://vse.apru.org/co-curricular-programs/>

### ☆対象者

本学に在籍する学部学生

### ☆申請方法

申請は、VSE ウェブサイトで行います。詳細は「VSE ウェブサイト Application」を確認ください。以下は手順の概要です。

- ① VSE ウェブサイト上で申請項目の入力
- ② 成績証明書や必要に応じて言語能力証明書等をアップロードし申請を完了させる
- ③ 本学 APRU VSE コーディネーター（国際部国際企画課国際交流係（email: intl-collab@office.osaka-u.ac.jp））による学籍状況等の確認
- ④ 提供大学による審査

★①～④の手続き後、VSE オフィスから結果メールが届き、受講が認められた場合は提供大学から登録方法等について案内があります。

※ APRU は、環太平洋地域を代表する大学の学長で構成される組織で、各国の高等教育の相互協力関係を強め、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題（例えば経済発展、都市化、技術移転、大気汚染、資源枯渇等）に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として1997年に設立されました。現在は、環太平洋地域から60大学（2024年1月時点）が加盟しており、各大学にてワークショップ、シンポジウム、国際会議等の様々なプログラムを実施しています。大阪大学は設立当初からメンバーとして加盟しており、各種イベントに学生及び研究者を派遣しています。

※ 登録費用：必要な登録料等は一部支給します。詳細は国際連携室まで、お問い合わせください。

## B. 奨学金情報 (2023 年度実績)

(奨学金の募集条件等は変更される可能性があります。2024 年度に募集される奨学金情報は、順次、大学のホームページ、KOAN 等で案内されます。)

大阪大学 HP » 国際交流・留学 » 大阪大学から海外留学したい方 » 留学助成制度  
<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/scholarship>

### 1. 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) 実施の奨学金

給付型・・・応募要件等を確認のうえ、人文学研究科 (旧文学研究科)・文学部研究科豊中事務部の教務係に応募書類を提出してください。

協定派遣	学部・大学院の正規生 (外国人留学生を除く) 3 ヶ月以上 12 ヶ月以内の交換留学	月額 10・8・7・6 万円 月額支給額は地域により異なる
大学院学位 取得型	以下の全てを満たす者 (外国人留学生を除く) ①申請時に本学学部・大学院に在学する正規生 又は最終学位を本学正規課程で取得した者 ② JASSO が定める「応募者の要件」を満たす者	月額 150,000 円～ 350,000 円 (地域により異なる) 授業料 (支給なし (予定))

詳細はホームページ (<https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>) をご覧ください。

### 2. 大阪大学の奨学金 未来基金グローバル化推進事業

応募要件等を確認のうえ、人文学研究科 (旧文学研究科)・文学部教務係に応募書類を提出してください。

交換留学奨学金 (派遣)	学部・博士前期課程の正規生 交換留学 (3 か月以上 1 年未満)	月額 5 万円
研究留学助成金	大学院生 (正規生) 研究留学 (3 ヶ月間以上 10 ヶ月間程度)	往復渡航費: アジア地域 10 万円、その他地域 20 万円 奨学金: 月額 10・8・7・6 万円 (留学先による)
住友化学グローバルリーダー 育成奨学金	学部・大学院生 (正規生) 留学 (3 ヶ月間以上)	留学期間 6 か月未満: 60/80 万 留学期間 6 か月以上: 90/120 万

### 3. 文学部の奨学金 教育ゆめ基金

交換留学する**文学部学生**を対象とした奨学金です。1 年に 2 回 (6 月と 1 月) 募集します。

文学部 HP » 国際交流 » 海外留学・研修 » 交換留学 (部局間) について » 「4. 教育ゆめ基金」  
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/inter-faculty>

### 4. その他の奨学金

\* 日本学生支援機構「海外留学の奨学金」[http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship\\_other/](http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship_other/)

\* 「官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学 JAPAN 新・日本代表プログラム～」

対象: 学部・大学院に在籍する正規生 28 日以上 1 年以内 (3 か月以上推奨) 留学する者

支給額: 月額 6 ～ 16 万円 (経済状況や留学先地域による) ※支援額は変更する場合があります。

## C. 外国語による授業

[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange\\_program/eng\\_course](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/eng_course) (英語開講授業リスト)

### 1. 全学共通教育科目の外国語による授業

### 2. 国際交流科目 全学の先生方が、その専門に応じて英語による講義を提供しています。

### 3. 外国語による発信力を育成するための科目

“Basic Academic Skills for Humanities” “Introduction to Contemporary Japanese Studies” などの外国語によるアカデミックスキルを育成する授業を開講しています。

### 4. エラスムス・ムンドゥス英語授業 "Contemporary Japan in the Global Context"

10 月から 12 月に開講されます。(修士課程以上)

## D. 語学能力について

英語の場合 各大学の必要要件を調べましょう。セクションごとに足切り点がある場合もあります。

- ・TOEFL アメリカやカナダなど北米の大学に応募する場合一般的に用いられます。試験はコンピューターで4技能(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング)を測定する試験です。
- ・IELTS イギリスやヨーロッパ、オセアニア、アジア圏などで一般的に用いられます。特にイギリスの場合は、IELTS UKVIの指定がある場合もあるので確認しましょう。また、学生ビザ申請のための足切り点もあります。筆記試験と、スピーキングの面接があります。

**国際連携室に試験対策用の参考書がありますのでご利用ください。貸し出しもできます。**

英語以外の外国語の場合

当該外国語の語学能力試験のスコアの提出、もしくは大阪大学で行われている当該ネイティブ講師による語学能力を証明する文書の提出によって判断します。大学間では、交換留学応募時に公式の語学能力証明書を求められることがあります。

## E. 外国語（英語）能力向上への支援

文学部・人文学研究科でグローバル人材育成の目的で、言語能力及び国際的な場で発言できる訓練のために以下のようなプログラムを提供しています。

### 1) 国際セミナーの開催及びプロシーディングの刊行

文学部・人文学研究科で学ぶ学生が国際的な場で自信を持って英語で発言し、議論を行うための訓練の場として、国際セミナーを開催しています。このセミナーでは、当学部・研究科の日本人学生や留学生だけではなく、海外の大学の学生や教育者も参加できるようにし、口頭発表のみならず、質疑応答・教育研究者コメント等も英語で行います。また、海外からの参加者と自由に意見交換や議論が行える環境を提供します。発表者全員に発表内容を英語で論文化してもらい、セミナー開催の詳細報告と合わせたプロシーディング (ISBNも付与) を刊行しています。

文学部・人文学研究科の学生の口頭発表の準備にあたって、国際連携室では英語の発表方法等について指導・助言、また、英文校正のための特別支援も実施しています。当セミナーは、文学部学生の海外の教育研究者・学生との交流だけではなく、語学研修への足がかりにもなります。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/news>

### 2) グローバル人文学推進のための英語集中講座

「教育研究の国際的通用性・国際的発信力」(向上)を実現するため、学部生・大学院生を対象とした英語集中講座 (IELTS等) を実施しています。二つのレベルを設定して二講座 (中級/中上級など) を設定しています。学外からネイティブの講師 (ブリティッシュ・カウンシルなどから) を招き、授業をしてもらいます。受講料はかかりません。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/academicwriting>

### 3) 英語能力判定試験 (IELTS、TOEFL) 受験料補助

2023年度から開始した制度です。文学部・人文学研究科(人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻)の正規課程の学生の留学準備への支援として、英語能力判定試験 (IELTS、TOEFL) の受験料を一部補助しています。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/iivlje-1>

## ★正規留学 学位取得を目指し、国外の大学や研究機関へ留学

### ▼エラスムス・ムンドゥス修士課程への留学 ユーロカルチャープログラム奨学生への推薦

EUが運営するErasmus Mundusプログラムのひとつに、ユーロカルチャー (Euroculture) があります。豊富なカリキュラムを通じ、現代ヨーロッパの文化・社会・政治についてEU圏内の大学で多角的に学べるプログラムです。

大阪大学人文学研究科は同プログラムのパートナー校として、大阪大学の卒業生と大学院生の中から毎年若干名を推薦しています。2年間、EU圏内の以下の8大学のうち2校へ留学でき、修了後はその2校から修士号が得られます。詳細は[文学部の関連ページ](#)(HP » 国際交流 » Erasmus Mundus)をご覧ください。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/erasmus>

コンソーシアム参加校：グローニンゲン大学 (オランダ)、ゲッティンゲン大学 (ドイツ)、ウプサラ大学 (スウェーデン) ヤゲロニアン大学 (ポーランド)、パラツキー大学 (チェコ)、デウスト大学 (スペイン)、ウーディネ大学 (イタリア)、ストラスブール大学 (フランス)

毎年10月に説明会を実施していますので興味のある方はご参加下さい。

11月に学内選考を行い奨学生候補を選出しています。

Erasmus Mundus Master of Arts  
**EUROCULTURE**





## 留学体験記

### イギリスでの演劇留学

演劇学専修 学部4年生 安川奈那  
イギリス マンチェスター大学 (部局間派遣、派遣時学部4年生)

元々、英語には強い苦手意識があり、留学するとは全く考えていなかった。そのため、語学力の向上、研究などの目的で留学を思い立った頃には、卒業を延期しなければならなくなっていた。ただ、既に基礎的な知識がある程度身についた状態で、大阪大学のサポートの下、学部卒業後進学するよりも安く留学できたので、このタイミングになったことに後悔はない。

マンチェスターでは、主に関心のある演劇やパフォーマンスについての授業を取った。他の学科に比べても、クラスに留学生が少なく、一時間半程の少人数のディスカッション中心の授業はかなり緊張した。もちろんネイティブばかりの周囲に比べて、英語力は足りていなかったが、プレゼン発表や期末レポートでは、時間をかけて真摯に取り組めば、変わらず評価されるということを実感し、自信に繋がった。加えて、様々な文献や論文、アーカイブ資料を閲覧でき、卒論のための研究に非常に役立った。ただ、予習のために論文や戯曲を読んでいる時間が多く、スピーキング力を伸ばすのは、自分から積極的に会話の機会を求めていかないと難しいと感じた。

生活面では、よくイメージするような留学のキラキラ写真とは無縁で、大人数でパーティーを開いて、クラブで遊ぶという文化には、全く馴染めなかった。いろいろな出会いや、国内旅行の思い出もあるが、基本的には空いた時間には演劇ばかり観に行った。



卒業式日のマンチェスター大学の門前にて

すぐ歩いていける距離に小劇場から大劇場まで、合計5つほど劇場があり、しかも最後列でもよければ日本で観るよりも安いため、週2かそれ以上に通っていたと思う。休暇中には、ロンドンや、演劇祭を開催していたルーマニア、ドイツ等に行き、そこでもミュージカルやケイティ・ミッチェルやミロ・ラウといった話題の演出家の作品を集中的に観た。留学を通じて可能になった観劇や様々な人との交流の経験は、田舎出身で、コロナ禍での大学生活を送った私に、鮮烈な印象を残している。

### コペンハーゲン大学への留学

西洋美術史専修 学部3年生 手島惇成  
デンマーク コペンハーゲン大学 (大学間派遣、派遣時学部2年生)

コペンハーゲン大学に留学していたこの一年間は、私の人生二十年の中で間違いなく最も幸せで充実していた期間でした。何がそんなに良かったのか、と聞かれると「全部！」と言いたくなってしまい少し困ります。しかしあえて一番を挙げるなら、西洋美術を生で、沢山、いつでも鑑賞できたことでしょうか。講義で取り扱った絵や建築をその週末に観に

行ったり、ちょっと遠出するくらいの感覚で他国の美術館を訪れたり、と美術史学徒にとってはこの上なく勉強しやすい環境が整っていました。留学の主な目的は卒論のテーマを決めることだったのですが、この環境のおかげで心ゆくまで悩み、そして悔いのない選択をする事ができました。加えて、美術史学で最も大切なことのひとつは、実際に作品を観察する

ことです。今回の留学でヨーロッパの有名な美術館や教会を一通り訪れ、膨大な数の作品を鑑賞できたことは、今後美術史を学ぶ上での貴重な財産になると思っています。

何語を使って過ごしていたのか、と帰国してから良く聞かれます。私はずっと英語でコミュニケーションを取っていました。公用語はデンマーク語ですが、デンマーク人はほぼ全員流暢に英語を話すためです。講義も英語で受け、全ての授業で毎回行われるディスカッションでは相当スピーキング力を鍛えられました。ですので、英語力を高めたいけど大陸ヨーロッパに留学したい！という方にもデンマークはおすすめです。是非留学先の候補に入れてみてください。川で泳げるとか建築が綺麗とか空港が近いとかおすすめの理由はまだまだあるのですが、字数の都合上割愛します。

最後に、交換留学であっても留学先で取得した単



キッチンメイトと、寮の中庭にて

位が殆ど阪大の卒業要件単位に算入されないことには注意してください。しかし、単位の問題が些細に思える程に留学から得られるものは多いです。もし留学を迷われているなら、一步を踏み出してみてもいかがでしょうか。絶対に後悔しないことは、私が請け合います。

## 月沈原に暮らして

人文地理学専修 学部4年生 大澤 悠

ドイツ ゲッティンゲン大学 (部局間派遣、派遣時学部3～4年生)

ゲッティンゲンはドイツ中部の大学都市だ。円形の市壁跡に囲まれた旧市街を中心に、赤い屋根の木組みの家々が並ぶ、典型的なドイツらしい小都市である。大都市から“隔離”され、のびのびと学びに集中できる学生向けの街ながら、さすがは連邦国家ドイツ、分散した都市を縦横に結ぶ交通網により、南北軸上のこの街はどこへも遠すぎずの好立地ともいえる。

以前より外国で働く夢を持ち、本当に自分が外国で暮らさうのか試したかった私は、部局間交換留学生としてゲッティンゲン大学で一年間学んだ。前世紀の先達が月沈原と名付けたこの都市は、いかなる時も大学生が街の雰囲気支配する。私は哲学部に所属し、ドイツ人学生に混ざり文化人類学の講義に出た。ドイツ語開講の専門科目での単位取得は、私に大きな自信を与えた。そして、両親に頼んだ国際郵便が届かずじまいという郵便事情への文句こそあれど、現地の気候、食事、友人たちはまた住むのだと決意するのに充分だった。特に週に一度、趣味の繋がりから街外れの小さな小屋で語った経験は、真の成長の場であったと言っても過言ではない。

また、留学中はドイツ語圏に専念しようと決意し、私はドイツ語圏4カ国の全52州を訪れた。その中で印象に残っているのはランツゲマインだ。これはスイスで中世以来続く直接民主制の青空議会で、州最高の意思決定の場として今も二州で行われている。私は

双方を訪れたが、現在も有効な投票券であるサーベルを携行した農民たちは、春の風物詩に誇らしげだった。さらにドイツといえば音楽だ。どの街にもオーケストラがあり、どの都市にも歌劇場文化が根付く様子も十分に堪能した。

最後に漠然と一年間と聞けば途方もなく長く感じるかもしれないが、50週と換言するとどうだろう。常に自らを律し、自分にしか成し得ない留学を完遂するには案外短い。それがどのような軸であれ、誇りを持ち回顧できる留学となったことに安堵している。



ミュンヘン訪問時、バイエルン国立歌劇場にて

## A viable alternative to established paths: Studying popular music at Osaka University

音楽学 博士後期課程 2年 Anita Drexler  
オーストリア出身留学生

My name is Anita Drexler and I am currently a PhD student at the Department of Musicology at Osaka University. Before coming here, I obtained my Master's degree in East Asian studies, with minors in Media studies and Musicology, from the University of Vienna, Austria.

I decided to join my lab at Osaka University because it is currently the best place – I would argue worldwide – to study my very niche topic, which is historical Japanese popular music. While people who knew about its reputation congratulated me after I was accepted, others were more skeptical of my choice, because for a lot of students, pursuing a career in academia is still often linked to getting into prestigious European or North American universities.

However, firstly, because I believe that the current US-and anglocentrism in academia is bound to wane within the next decades, secondly because at PhD level it is best to actually study at the place you do your research on, and thirdly because a full-ride scholarship by the Japanese government allows me to pursue my studies quite uninhibitedly, I am convinced that by coming here I made the right decision for my personal growth as well as for my career.

If I were to explain the particularities of university life as a graduate student at Osaka University, I would say that the major difference is that you are expected to be more socially involved with your institution and your academic staff, which allows you to enjoy the benefits of a closer professional relationship and advice that is tailor-made to your individual needs.

In my lab, our advisors, the professors Itoh and Wajima, are doing a great job in creating an intellectually nourishing, cosmopolitan atmosphere, helping their students expanding their skill set and their networks.

On a university-wide scale, most other things – student support, funding opportunities, social gatherings – are similar to the European experience, with the exception of library opening hours, and the quality of housing which may require you to adjust your expectations. Also, since Osaka University can pride itself on harboring a considerable pool of bright and open-minded spirits, making friends has been a smooth sail.

Overall, I recommend pursuing their studies at Osaka University to people who have a plan on how to utilize a degree from a top-ranking Japanese institution, appreciate high academic quality, are willing to invest in building social relationships and are ideally fully funded.



At Osaka University music lab

編集・発行 人文学研究科・文学部 国際連携室  
堂山 英次郎・モハンマド モインウッディン・廣澤沙紀  
発行日 2024年3月31日

〒560-8532 豊中市待兼山町 1 - 5